

原子力規制委員会「東通原子力発電所の敷地内破碎帯の評価について(案)」に対する当社意見の概要

主な論点	有識者会合の評価書案の論旨	主な当社意見	敷地内断層の概要
敷地内断層の活動性	<p>○敷地内の主要断層の多くが後期更新世(約12~13万年前)以降に活動した耐震設計上考慮する活断層である可能性が高い</p> <ul style="list-style-type: none"> • F-3断層における横ずれ断層運動の痕跡(礫の落ち込み、花卉構造等) • F-9断層を覆う地層の変位・変形の累積性(東側(海側)の地形の隆起等) • 活断層の可能性のある断層が敷地全体に広い範囲で系統的に連続など 	<p>○敷地内の主要断層は、以下の理由により、後期更新世以降の活動はなく、耐震設計上考慮する活断層ではない</p> <ul style="list-style-type: none"> • 断層破碎部は固結・岩石化(数百万年前以降、活動していない) • 断層は地下深部(地震を起こす地層)まで連続していない <p>○評価書案の指摘については、活断層でなくとも説明・評価が可能であり、活断層とすると整合しない内容がある</p> <ul style="list-style-type: none"> • 礫の落ち込みは、浸食・堆積作用によるもの • F-9断層が仮に逆断層として活動した場合、東側(下盤)が隆起することはない • 断層活動を示唆する変動地形が認められないなど 	
第四系変状の成因	<p>○第四系の変状の主な成因が膨潤であるとの主張は根拠が乏しい</p> <ul style="list-style-type: none"> • 断層への礫の落ち込み、地形的高まり • 類似事例がない など 	<p>○様々な要因を抽出・分析し、第四系変状の成因として、岩盤劣化部の体積膨張(膨潤)が最も有力であると評価</p> <ul style="list-style-type: none"> • 岩盤の劣化箇所と体積膨張(膨潤)が対応 • 類似な特徴を有する海外事例有(米国コロラド など) 	
原子炉建屋付近の断層	<p>○耐震安全上重要な施設の直下を通過することから、更なる検討が必要</p>	<p>○過去に実施した地質調査結果から耐震設計上考慮すべき活断層ではない</p> <ul style="list-style-type: none"> • f-1断層は、岩盤上部に段差が認められない。また、上部地層の第四系変状とf-1断層の変位方向が逆であり、関連性がない • f-2断層は、岩盤内部で消滅している。また、上部の第四系の地層に変位・変形を及ぼしていない 	